

令和7年度事業計画

沖縄県臨床検査技師会新体制となって、早一年となりました。組織全体、まだ不慣れなところもみられるかと思いますが、執行部全員全力で取り組んで参ります。

現在、コロナウイルス感染症はほとんど収束に向かっており、各種学会や研修会等も規制もほとんど無く開催され、対面形式が主体となってきました。加えてWeb開催の利点も得られており、双方を上手く活用した形式で、沖縄技事業を進めていく所存でございます。

先日、日臨技から令和7年度事業計画が発表されました。現在、我が国は2030年に向けて「医療DX」が進められており、地域のクリニックを含む全国すべての医療機関に簡易型の標準電子カルテが普及される方向で進められ、各医療機関や薬局で情報共有できる形を目指しております。デジタル技術を活用し、業務を効率化させることが目的になっており、私たち臨床検査技師を取り巻く環境も大きく変わろうとしております。詳細は日臨技HP等で参照していただきたいです。

今年度の重点課題として、「タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」の開催があげられます。沖縄県においては、昨年度までには計10回開催し、会員の約61.4%の方々が終了されました（4月時点で全国8位）。今年度も1回開催を予定しておりますが、予測される受講者数が開催の可否に関わってきますので、座学の段階で留まっている方も含め、是非未受講の方は早めに受講されますようお願い申し上げます。開催が決定次第、広報して参りますのでご検討よろしくお願い致します。

今回が第3回となる「地域リーダー育成研修会」は、2026年2月22日（日）に友愛医療センターで開催を予定しております。今回も日臨技から講師を招いて、グループワークも組み込んだ内容となっておりますので、非常に勉強になるかと思います。多数のご参加をお待ちしております。

臨地実習に関してですが、昨年度の実習生より、臨地実習受け入れ施設においては1名以上の臨地実習指導者の配置が義務付けられました。沖縄県では受け入れている全施設満たしているかと思いますが、複数の指導者が存在することが好ましいと思います。実習する学生も、そして実習生を受け入れる側も実習内容のレベルアップが求められ、質の高い臨床検査技師の育成が社会的地位の向上にも繋がることから、是非多くの施設の皆さまの協力をお願い致します。

新人研修会につきましては、今年度は7月12日（土）開催予定ですが、昨年度コロナ禍以前のように、ペンションを貸し切った宿泊研修を開催致しましたが、宿泊者数が少なく、時代の流れも考えられ、今年度は試験的に宿泊なしの終日開催を試みたいと思います。場所は沖縄県産業支援センターで、是非多くの方々に参加いただき、横のつながりを深めていただきたいと望んでおります。

公益活動としては、8月17日（日）になごみ会主催「県民健康フェア」を開催いたします。今年度が沖縄コンベンションセンターでの開催は最後となります。是非、足を運んでいただければ幸いです。11月には恒例の全国「検査と健康展」を開催予定しております。これは日臨技からの委託事業にあたり、沖縄技の理事や学術委員を中心に活動しておりますが、ご協力いただける一般会員の方も歓迎しており、是非お声がけください。一昨年から参画していたサイエンステックフェスに関しては、今年度からホストであった沖縄県公衆衛生協会が別の団体と代わるので、今年度の協力体制はありません。

学術活動に関しては、まず、2025年度沖縄県医学検査学会（第60回）が8月10日（日）に琉球大学文系講義棟で開催されます。学会テーマが「臨床検査×AIの推進とグローバルな臨床検査技師の融合」となっており、企画は特別講演に横地常広日臨技会長をお招きし、日臨技の方向性やこれからの臨床検査技師についての講演を予定しております。部門セミナーは輸血検査部門と生物化学分析部門が担当いたします。多数のご参加をお待ちしております。

次に、日臨技助成金申請研修会についてですが、昨年度は最大20研修会を達成しており、今年度も会

員の皆さまに還元できるような研修会を学術部各分野目指して参ります。加えて、令和7年度（第41回）沖縄県医師会臨床検査精度管理調査も例年どおり9月頃に実施いたします。

日臨技は、昨年度47都道府県における行政との災害対策協定の締結を推進しておりますが、沖縄県も早急に行政と締結を結び、いざ災害が起こった時にスムーズに動ける体制を構築していきたいと考えております。

連盟については、現在臨床検査技師の国会議員が不在の状況が続いております。法改正つまり臨床検査技師の地位向上には政治的力が必須であります。政治へ無関心な若手技師が多い中、技師連盟においても同様に連盟加入者も激減しており、日臨技自力で国会議員を擁立することが困難な状況に陥っております。それを打破するためには、若者に連盟の必要性や政治とのかかわりの重要さを認識していただく必要があり、是非加入していただきたいと思っております。

沖臨技の事業の一つに、3年前から開始した「ひまわり奨学金事業」がありますが、一昨年1名、昨年2名の奨学生が誕生しました。今後も県内の各高等学校へは案内をかけ、将来沖臨技を背負って立つような優秀な人材獲得に注力していく所存でございます。該当する学生がおりましたら、是非ご紹介下さいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、沖縄県民から信頼されるよう社会的な認知度向上に向けて広報活動にも注力していく所存です。会員並びに賛助会員の皆様方のさらなるご協力を宜しくお願いいたします。

一般社団法人 沖縄県臨床検査技師会
会長 山城 篤